

WOLFVISION

取扱い説明書

VZ-9.4 L



安全に関する注意事項



注意!

製品内部は高電圧のため
感電する恐れがあります



下記の注意事項に従ってください:

本製品を使用する場合は、ラベルの指示通りに必ず正しい電圧でご使用ください。
本製品が高い熱や湿気にさらされないように気をつけてください。
本製品に過度の衝撃を与えないようご注意ください。
換気をよくして、本体が十分に冷却されるようにしてください。(ランプハウジングの換気スロット)
何らかの異常な症状(雑音、臭い、煙など)がある場合は、直ちに電源ケーブルを抜きWolfvision製品取扱店までご連絡ください。
破損した電源アダプターやケーブルはショートや感電の原因になりますので使用しないでください。
危険を避けるため、本製品を改造したり、カバーパネルが所定の位置に固定されていない状態で操作しないでください。
本製品が水、金属あるいは引火性の物質に触れないようご注意ください。
本製品を設置する場合、強い磁気や電流が流れている場所を避けてください。
放射性物質のある環境も避けてください。放射性物質はモニター画像の歪みやカメラセンサーへの損傷の原因になります。
濡れた手で電源ソケットからプラグを抜かないでください。
本製品を長時間使用しない場合は、電源ケーブルを抜いてください。
付属の電源装置をご使用ください。CSA 22.2-60950 と UL 1950 の認証を取得しています。
出力は、LPS(限られた電源)でなければなりません!

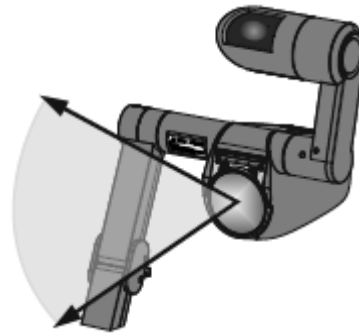
LEDライトに関する注意(EN62471) :



LEDライトを凝視しないでください!
LEDライトシステムを改造しないでください。
光を光学機器を使って見ないでください!

レーザーマーカに関する注意:

レーザーマーカを凝視しないでください!
レーザーマーカシステムを改造しないでください。
レーザーマーカを光学機器を使って見ないでください!



このラベルはアームの上部にあります。

レーザーマーカはカメラレンズより出ます

承認



FCC 規則:

本製品は FCC (米国連邦通信委員会) 規則Part15に準拠しています。

操作は、次の2つの条件を前提にします。

- (1) 本機は、有害な電波障害を引き起こすとは限らないこと。
- (2) 本機は、誤動作を生じうる干渉を含むあらゆる受信障害を許容するものであること。

注意:

本製品は、FCC (米国連邦通信委員会) 規則Part15 ClassAデジタル機器に関する規定要件に基づいて所定の試験が実施され、これに準拠しています。

これらの規定要件は、本製品を住宅地域で操作する際に有害な干渉から適切に保護するために設けられています。

本製品は、高周波エネルギーを発生し使用するもので、これを放射する場合があります。

また、本取扱説明書の指示に従って設置および使用しない場合、無線通信に有害な干渉をもたらす場合があります。

ただし、特定の設置方法において干渉が発生しないという保証はありません。

本製品が、ラジオまたはテレビの受信に有害な干渉をもたらす場合 (これは本製品の電源をオン/オフすることにより判断できます)、次の方法により干渉の解決を施行することをお勧めします:

- 受信アンテナの向きまたは位置を変える。
- 本製品とレシーバーの距離を離す。
- レシーバーが接続されているものとは異なるコンセントに本製品を接続する。
- 販売代理店または経験豊かなラジオ/テレビ技術者に相談する。

Information:

インテントショナルラジエータあるいはアンインテントショナルラジエータの取扱説明書は、許可なく本製品に変更や修正を加えた場合には、ユーザーに提供されている本製品の使用权が無効になると警告しています。

本製品は、EMC指令と電気機器指令に適合しています。

本製品は、UL 60950, CSA 22.22-60950規格に基づいた試験・評価を実施しています。

本製品は、CB-Schemeに基づいた試験・評価を実施しています。

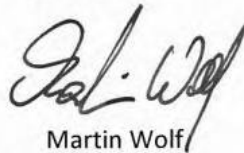
本製品は、PCT-Schemeに基づいた試験・評価を実施しています。

Declaration of Conformity

We, the company WolfVision GmbH, Oberes Ried 14, A-6833 Klaus, refer to the self-declaration of the company TP-Link, which is shown on the next page. Our products operate this wireless adapter within the country-specific standards, and hereby comply with all technical regulations.

Klaus, 17. Juli 2013

WolfVision GmbH

A handwritten signature in black ink, appearing to read "Martin Wolf". The signature is stylized and cursive.

Martin Wolf

著作権情報

Copyright © by WolfVision. All rights reserved.

WolfVision、Wofu Vision および沃福視汎は、WolfVision Holding AG, Austria の登録商標です。WolfVisionの書面による事前の許可なしには、いかなる方法においてもこの取扱説明書の複写、複製、転載を禁じます。購買者の保管（バックアップ）目的のみ許可されています。WolfVision 社は、改善のため製品仕様を予告なく変更する権利を有します。本書の内容は予告なく変更されることがあります。

免責事項：WolfVision 社は、技術上または編集上の不完全な記載または誤植についての責任を負いかねますのでご了承ください。

この製品は EU/オーストリア製です。

国際特許

EU 1 483 529

RU 2279602

US 7,104,512

TW I 247964

KR 0576806AT-U 7841

RU 2265284

US 7,035,011

TW I 226969

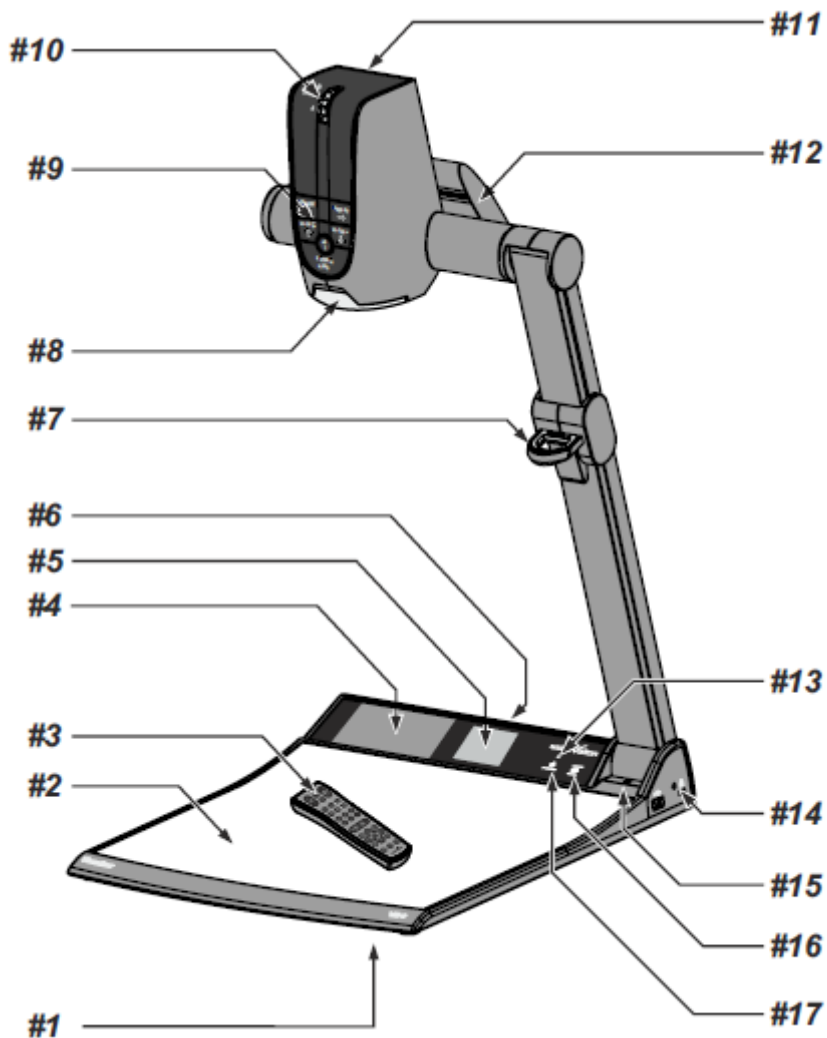
DE 202 03 785.1

FR 03 02886

JP 3 096 342

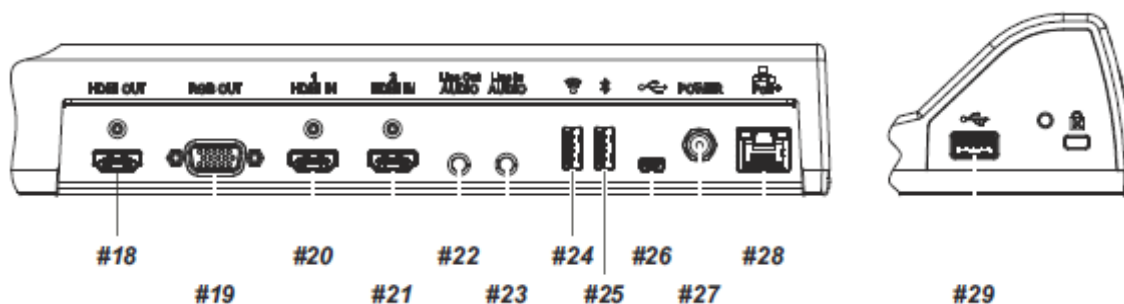
など

VZ-9.4L 取扱説明書
ビジュアライザーの構造



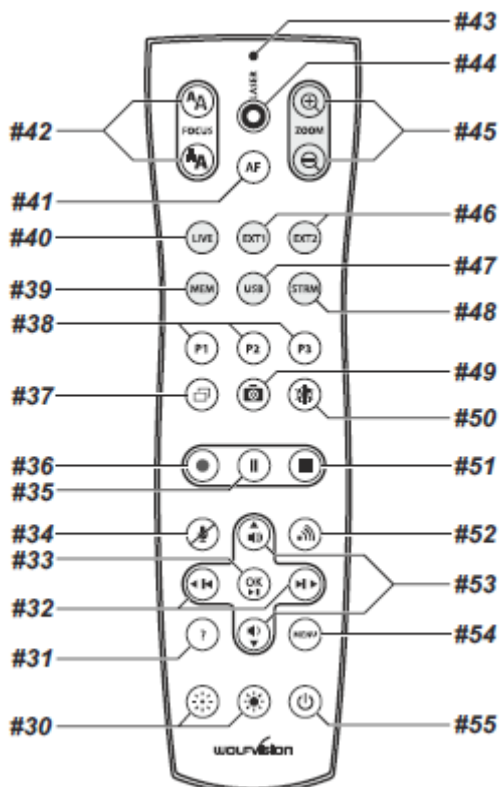
- #1 盗難防止装置 (盗難防止ネジ付き)(底面裏)
- #2 ワーキングプレート(10 ページ参照)
- #3 赤外線リモートコントローラー(7,8,23 ページ参照)
- #4 プレビューモニター(10 ページ参照)
- #5 スライド用ライト(10 ページ参照)
- #6 接続端子(背面及び側面、次ページ参照)
- #7 アーム上げ下げ用リング(10 ページ参照)
- #8 クローズアップレンズ(11 ページ参照)
- #9 カメラ操作キー(9 ページ参照)
- #10 ズームホイール(9 ページ参照)
- #11 赤外線受光部 (カメラヘッド部)
- #12 ライト
- #13 赤外線受光部 (ベース部)
- #14 Kensington lock®用スロット(24 ページ参照)
- #15 内蔵マイク (20 ページ参照)
- #16 Light キー(9 ページ参照)
- #17 Power キー(9 ページ参照)

接続端子 (#6)



- #18 HDMI 出力端子(19 ページ参照)
- #19 RGB 出力端子(15 ピン) (19 ページ参照)
- #20 HDMI 入力 1 外部 HDMI 信号用(20 ページ参照)
- #21 HDMI 入力 2 外部 HDMI 信号用(20 ページ参照)
- #22 音声出力 音声信号用出力(20 ページ参照)
- #23 音声入力 音声信号用入力(20 ページ参照)
- #24 USB ポート クライアント用
- #25 USB ポート クライアント用
- #26 USB ポート ホスト用 (コンピュータへ) (21 ページ参照)
- #27 電源入力端子 12V DC
- #28 LAN ポート 10/100 Tbase,PoE+機能付属(17,21,22 ページ参照)
- #29 USB ポート クライアント用(外部ストレージ等の周辺機器へ) (14,15,21 ページ参照)

赤外線リモートコントローラ (#3)



赤外線リモートコントロールキー

#30 マニュアル露出調整キー（明るさ調整）

映像の明るさを変更します。（12 ページ参照）

#31 ?HELP / RESETキー（オンスクリーンメニュー用・ダブル機能）

Infoスクリーンが表示され、現在のレコーディングやオーディオの状態を見ることが出来ます。（12 ページ参照）
オンスクリーンメニューを表示している時にHELPキーを押すことによりオンスクリーンヘルプを見ることが出来ます。このキーを2秒間押すと選択されたメニュー項目がリセットされます。（18 ページ参照）

#32 Backward・Forward キー / メニュー選択キー（ダブル機能）

MEM と USB モードが表示されている時、保存された画像間を移動し選択できます。（15 ページ参照）

オンスクリーンメニューが表示されている時、メニュー項目間を移動し選択できます。（18 ページ参照）

#33 確定 (OK) キー

オンスクリーンメニュー（18 ページ参照）、MEM 及び USB モード（15 ページ参照）が表示されている時に ENTER キーとして使用します。

#34 音声ミュートキー

オーディオ入力をミュートします。

#35 ビデオ録画の一時停止キー

ビデオ録画を一時停止します。再開するには再度クリックしてください。（14 ページ参照）

#36 ビデオ録画キー

ビデオ録画を開始します。（14 ページ参照）

#37 PiP キー

ライブ画像とフリーズ画像を比較します。（16 ページ参照）

#38 プリセットキー（プログラム可能な設定）

PRESET キーのいずれかを2秒以上押すと現在の設定条件を保存します。設定条件を呼び出すには、呼び出したいPRESET キーを素早く押してください。（12 ページ参照）

#39 MEM キー

内蔵メモリの画像と動画を表示します。（15 ページを参照）

#40 LIVE キー

カメラのライブ画像を表示します。（15 ページを参照）

#41 オートフォーカス (AF) キー

オートフォーカスのオンとオフを切り替えます。（12 ページを参照）

#42 マニュアルフォーカス (FOCUS) キー

画像のフォーカスを調整します。（12 ページ参照）

#43 LASER ポインター表示 LED

（日本仕様はレーザー機能はありません）

#44 LASER ポインターキー

（日本仕様はレーザー機能はありません）

#45 ZOOM キー

撮影領域のサイズを変更します。

#46 EXT1 と EXT2 キー

外部からの入力映像を表示します。再度ライブ画像を表示するには、LIVE キーを使用します。（20 ページを参照）

#47 USB キー

USB メモリの画像や動画を表示します。（15 ページを参照）

#48 STRM キー

受信したストリームの信号を表示します。（17 ページ参照）

#49 スナップショットキー

スナップショット機能が使用できます。（14 ページ参照）

#50 フリーズキー

現在のイメージを静止させます。（12 ページ参照）

#51 ビデオ録画停止キー

ビデオ録画を停止します。（14 ページ参照）

#52 Stream キー

ネットワーク上のストリーミングを開始/停止します。（17 ページを参照）

#53 オーディオボリュームキー / メニュー選択キー（ダブル機能）

音声出力のボリュームを増/減させます。

オンスクリーンメニューが表示されている時、メニュー項目間を移動し選択できます。（18 ページ参照）

#54 MENU キー

オンスクリーンメニューが表示されます。（18 ページ参照）

#55 POWER キー

本体の電源 ON/OFF を行います。本体に電源が入るとビジュアライザーはパワーオンプリセットが作動します。

ビジュアライザーのキー

ヴォルフビジョン社のポータブルビジュアライザーの大きな特徴の1つは、最も必要なキーだけをユニット上に備えていることです。そのため、どなたでも説明書なしで使用することができます。経験者の方はビジュアライザーのリモートコントローラでより多くの機能がご使用になれます。リモートコントローラの大部分の機能はカメラ・ヘッドのキーでもコントロールすることができます。

本体

POWER と LIGHT キーはタッチセンサーキーとなっているため、タッチするだけでスイッチの ON/OFF を行います。（常にキー周りをきれいにしてください）

16 LIGHT キー

トップライトの ON/OFF を行います。

Light キーを押すと、順番にトップライト、スライド用ライト、トップライト OFF に切り換わります。

LIGHT キーは 2 秒間長押しするとワンプッシュ ホワイトバランス キーとしても使用できます。（13 ページ参照）

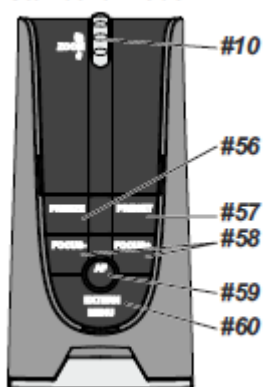
注意事項：スライド用ライトフィールドが作動時、ビジュアライザーはスライドの画像サイズにズームします。

17 POWER キー

本体の電源 ON/OFF を行います。電源を入れると自動的にパワーオンプリセットが作動します。

カメラヘッド

Standard mode



10 ズームホイール

ホイールを下に回すとズームイン（TELE）し、上へ回すとズームアウト（WIDE）します。ズームホイールを回す程度に応じて、ズームスピードが速くなります。

56 FREEZE キー / メニュー：SELECT キー（左）

現在撮影されている映像を静止させます。フリーズモードが作動している時にはフリーズライトが点灯します。

オンスクリーンメニューが表示されている時には、選択キーとして動作します。（18 ページ参照）

57 PRESET キー / メニュー：SELECT キー（右）

PRESET キーを 2 秒以上押すと現在の設定条件を保存します。

設定条件を呼び出すには PRESET キーを素早く 1 回押します。（12 ページ参照）

オンスクリーンメニューが表示されている時には、選択キーとして動作します。（18 ページ参照）

58 マニュアル FOCUS-/+キー / メニュー：NAVIGATION キー（上下）

マニュアル FOCUS キーを押すと、ビジュアライザーのオートフォーカス機能が解除されます。

AF キーを押すとオートフォーカス機能は、再度 ON になります。（12 ページ参照）

オンスクリーンメニューが表示されている時には、選択キーとして機能します。（18 ページ参照）

59 AUTO FOCUS (AF) キー / メニュー：? HELP キー

オートフォーカスの ON/OFF の切り替えを行います。AF ライトは、オートフォーカス作動時に点灯します。（12 ページ参照） オンスクリーンメニューが表示されている時には、ヘルプキーとして機能します。（18 ページ参照） このキーを 2 秒間押し続けると、

選択されたメニュー項目がリセットされます。（18 ページ参照）

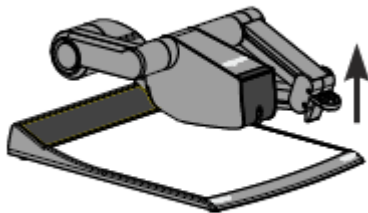
60 の EXTERN キー / MENU キー

ビジュアライザーの映像と外部からの入力映像の切り替えを行います。（詳細は 20 ページ参照）

EXTERN ライトは、外部からの入力映像が表示されているときに点灯します。

2 秒間押し続けるとオンスクリーンメニューが表示されます（18 ページ参照）

ビジュアライザーのセットアップ



- 1.電源アダプターを電源入力端子（#27）に接続します。
- 2.ディスプレイ機器(プロジェクタ・モニタ・ビデオ会議システム等)をビジュアライザーの適切な出力端子（#18,#19,#28または#29）に接続します。
重要：
正しい出力の選択については、19 ページの詳細説明を参照してください。
- 3.引き手部分（#7）を持ってアームを引き上げてください。
カメラヘッドとライトが適切な動作位置にセットされビジュアライザーの電源が自動的に入ります。（POWER キー（#17 または #55）をタッチしても同様に電源をオンにすることができます。）
重要：
アームを折りたたむときは引き手部分(#7)のみを引いて畳んでください。

パワーオンプリセット：

本体に電源が入ると自動的にパワーオンプリセットが作動します。

これは、ズームサイズが約 20cm (DIN A5) でオートフォーカス ON、オートアイリス ON で作動する設定になっています。

電源表示 LED が緑に点灯し続ける状態になると、ビジュアライザーが使用可能であることを示します。

電源が投入されたとき又は POWER キーが押された時の動作についてはオンスクリーンメニューで変更することができます。（18 ページ参照）

ワーキングプレート（#2）

ビジュアライザーのワーキングプレートは特殊なクリスタルホワイトを採用し、透過原稿を完璧に再現するよう設計されています。

次のような場合は、オプションのライトボックスの使用をお勧めします。

- 非常に暗い色の透過原稿。
- 透過原稿の表面が波打っていて反射を引き起こす。
- 室内照明が透過原稿上で反射する。

オプションのホワイトボードシートには、ホワイトボードマーカーを使用して直接書き込むことができます。

詳細は、www.wolfvision.com/Products/Accessories をご覧ください。

ワーキングプレート上の被写体の位置あわせ



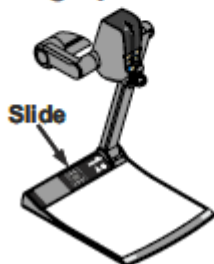
同期レーザーマーカーがワーキングプレート上の撮影範囲の四隅をマーキングする事で、被写体の位置合わせを簡単にします。

レーザーマーカーがカメラのズームに同期して、撮影領域 16:9 を示します。

LCD モニターが内蔵されているため、別途モニターを用意する必要がありません。このモニターは撮影中の画像のみならず、メイン出力の映像がフリーズされていても撮影中の画像なども表示できます。（オンスクリーンメニューで設定可能 - 18 ページ参照）

オンスクリーンメニューもこの LCD モニターで見ることができます。

Picking-up Slides



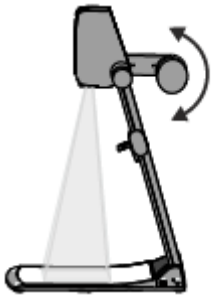
スライドの撮影

スライドを内蔵スライド用ライトの上に置き、カメラヘッドをスライドへ向けカメラ映像の中心に来ようカメラヘッドの位置を調整します。

次に LIGHT キー(#16)をタッチします。

カメラのズームがスライドサイズに自動的に調整されフォーカスも調整されます。

ワーキングプレート上の撮影範囲

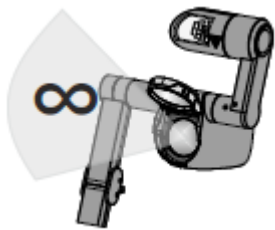


反射の解消

写真などの光沢のある被写体の場合、光の反射を防ぐため、ライトを少し上又は下の方向へ動かしてください。初期状態は水平です。
あるいは、被写体を動かしてカメラヘッドを撮影範囲の中心に来るように回転させ反射を防ぐことも可能です。
ワーキングプレートの彎曲は、反射を軽減するように設計されています。

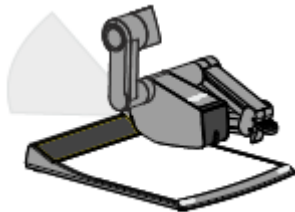
通常の室内照明でも反射が発生することがありますのでご注意ください。

ワーキングプレート外の撮影範囲



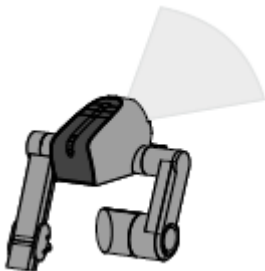
クローズアップアダプターレンズ

ワーキングプレート外にある被写体を撮影する場合は、クローズアップレンズ (#8) をはね上げてください。クローズアップレンズは、本体から取り外せないためレンズを失くすことはありません。
ワーキングプレート上を再び撮影するときはクローズアップレンズを元の位置に戻してください。
カメラは 290 度まで回転することができます。
(後方 110 度、前方 180 度)



ライトを上方へ向ける / 柔軟な撮影角度

ワーキングプレート外に照明を当てて撮影するには、ビジュアライザーのライトを上方に垂直に動かしてください。通常よりも低い角度から撮影するには、必要な位置までビジュアライザーのアームを折りたたみ、カメラヘッドとライトを撮影したい被写体の方向に向けてください。
デフォルト設定では、アームを折りたたんだ状態ではスタンバイ状態です。
この動作はオンスクリーンメニューで変更することができます。(18 ページ参照)



イメージ・フリップ

カメラヘッドを回してビジュアライザーの前方に向けると画像は自動的に 180 度回転します。
この機能は、発言者や本体前方にある被写体を撮影する際にたいへん便利です。

フォーカス / オートフォーカス

何も書かれていないペーパーなどコントラストの低い被写体はフォーカス調整が難しくなります。オートフォーカスが作動しない場合は、被写体を少しだけ動かしてください。

特殊な使い方の場合、ON/OFF スイッチ(#41 または#59)を使ってオートフォーカスを解除することができます。マニュアル FOCUS キー(#42 または#58) を押すと、自動的にオートフォーカスが解除されます。

光学ズーム / デジタルズーム

ビジュアライザーは光学 16 倍ズーム、デジタルズーム 4 倍で合わせて 64 倍ズームを備えています。デジタルズームを使用しない場合のワーキングプレートでの最少撮影範囲は 25×19mm です。(1" x 0.8") さらにズームすると、デジタルズームが自動的に作動し 6×4mm (0.23" x 0.16") の最少範囲まで撮影が可能です。デフォルトではデジタルズームが作動する前にズームが一度止まりスクリーンにデジタルズームが作動するとメッセージが表示されます。

このメッセージの表示はオンスクリーンメニューで変更できます。

オート露出 / マニュアル露出

ビジュアライザーにはオート露出機構が備えられており、撮影映像の明るさを自動的に調整します。マニュアル露出調整キー(#30)を使うことによって、手動で画像を明るくまたは暗く調整できます。標準のオート露出レベル(画像の明るさ)はオンスクリーンメニューで設定することができます。撮影領域に明るいスポットがある場合、オンスクリーンメニューでバックライト補正機能をONにすることができます。(18ページおよびオンスクリーンヘルプ参照)

プリセット機能

ビジュアライザーは現在の設定をプリセットとして保存でき、リモコン上のそれぞれのPRESETキー(#38)で、設定を呼び出すことができます。

PRESET1は、カメラヘッドにあるPRESETキー(#57)でコントロールすることができます。

PRESETキーに設定を保存するには、それぞれの機能を必要に応じて調整したのち、リモコンの任意のPRESETキーを2秒間以上押し続けます。プリセットが保存されるとスクリーン上にメッセージが表示されます。

上記の方法で、ズーム、フォーカス、露出等の現在の設定がすべてプリセットとして保存されます。これとは別に「Light ON/OFF」「ネガ・ポジ反転」「ネガ・ブルー反転」「白黒」「ホワイトバランス」「フリーズ」などといった特定の機能をオンスクリーンメニューでPRESETキーに予め設定することが可能です。(18ページ参照)

ヒント:

縦長もしくは横長の書類を撮影する場合は、PRESET キーに「ASPECT RATIO」機能を割り当ててください。

これは、4:3 と 16:9 モードとのカメラのアスペクト比を切り換えます。

FREEZE

現在撮影されている映像を FREEZE キー (#50 又は #56) を押すことによって静止させることができます。観衆が静止画像を見ている間、次の資料を準備する間に用いることもできます。

Info Screen (ステータス)

リモートコントロールキーの?HELP キー(#31)を押すことによってインフォスクリーンが表示されます。

録画可能な時間、録画ステータス、オーディオ設定等が表示されます。

インフォスクリーンは、2、3秒後に自動的に消えます。

ステータスアイコン

表示スクリーン左下隅のそれぞれのアイコンは、ストリーミング、レコーディングとマイクのステータスを表示しています。

ホワイトバランス調整

正しい色を再現するには、正確なホワイトバランス調整が重要となります。
ライトの状態が変わるたびにビジュアライザーは最適な色の再現のため、カメラのホワイトバランスを調整しなければなりません。ライトの状態（色温度）は、例えばビジュアライザー本体のライトから外付けのライトボックスに変わったときや室内のライトが ON/OFF したときなどで変化します。

ビジュアライザーは「Auto Tracking(自動調整モード)」に標準設定されていますので、このモードではホワイトバランスは常に自動調整されるようになっています。

正確なホワイトバランス調整のためには、映像の 10%以上が白である必要があります。
より正確なホワイトバランスを調整するには、「ワンプッシュ」ホワイトバランス機能を使用します。
この場合、LIGHT キー(#16)を 2 秒間押し続けます。ホワイトバランスが記憶されるとスクリーン上にメッセージが表示されます。「ワンプッシュ」ホワイトバランスに設定されると「Auto Tracking」モードは自動的に解除されます。（本体の電源を切り、再び電源を入れると「Auto Tracking」モードに戻ります。

通常、ホワイトバランスのマニュアル調整は必要ありませんが、スクリーン上の映像の色が実際と違って見える場合、マニュアル（ワンプッシュ）で調整してください。

ワンプッシュホワイトバランスを行う 3 ヒント：

トップライト使用時：

撮影した映像のすべてが白くなるまで白い被写体（例：白い紙など）にズームしてから LIGHT キーを 2 秒間押し続けます。

ライトボックス上の透明被写体：

ビジュアライザーのライトを OFF にしてライトボックスを ON にします。
ライトボックスに何も載せないでモニタ映像が白だけになるように最少撮影サイズまでズームインした後、LIGHT キーを 2 秒間押しします。

ライトボックス上の X 線フィルム：

ビジュアライザーのライトを OFF にしてライトボックスを ON にします。
X 線フィルムをライトボックスに載せて X 線フィルムの全体が撮影できるまでズームアウトし LIGHT キーを 2 秒間押しします。

注意事項：誤った色彩はプロジェクターまたはモニターの間違った色の設定によることがあります。最初にビジュアライザーのホワイトバランスの調整をすることをお勧めします。もし、まだ解消されなければプロジェクターまたはモニターをチェックしてください。

上級ユーザー向け：

「Auto Tracking」「One Push」「Manual」ホワイトバランスの各モードは、オンスクリーンメニューで切り替えることができます。（18 ページ参照）。ライトボックスを使用してネガ透過原稿を撮影する場合は、ネガフィルムの空欄部分（映像の黒い部分）でホワイトバランスを調整してください。

ライトボックス(オプション)

ライトボックス使用時、ビジュアライザーのトップライトは LIGHT キーでスイッチを切られなければなりません。ビジュアライザーの推奨ライトボックスは、WolfVision 製ライトボックス LB-9 です。

スナップショット - 静止画保存

スナップショットキー（#49）を押すことによって表示中の画像が、内蔵メモリに保存されます。

内蔵メモリ（外部ストレージデバイスを接続されていない場合）

静止画と動画は、ビジュアライザーの 8GB 内蔵メモリに保存されます。

ビジュアライザーの MEM モードで静止画（または動画）を見ることができます。

すべての画像は、日付とタイムスタンプ付き JPG フォーマットで保存されます。（WV_JJJJMMDD_hhmmss）

例：WV_20130919_024735.jpg

オンスクリーンメッセージでファイル名を表示します。

外部ストレージデバイスが接続されている状態

静止画と動画は、外部ストレージデバイスに保存されます。

利用できる容量は、デバイスに依存します

保存された全ての画像は、日付とタイムスタンプ付きの連続した番号が割り当てられ、JPG フォーマットで保存されます。（WVxxxxxx_JJJJMMDD_hhmmss） 例：WV_20130919_024735.jpg

オンスクリーンメッセージでファイル名を表示します。

画像（または動画）はビジュアライザーの USB モードもしくはソフトウェアがインストールされているコンピュータで見ることができます。

USBの機能設定は、オンスクリーンメニュー(Advanced Settings → USB Stick Settings)で、デフォルトの画像フォルダ名(document directory)やファイル名("WV"に連続して番号割り当て)を変更することができます。

ビデオ - ビデオクリップの録画

ビジュアライザーは、音声を含むコーデック H.264 マルチメディアコンテナフォーマットのビデオ録画に対応しています。（ビデオファイル拡張子は、*.avi です）。

ビデオソース（カメラ・ライブ画像、外部 HDMI またはメモリー）を選択し、音声ソース（HDMI-In、Line-In）をオンスクリーンメニューで選択し、REC キー（#36）で録画を始めてください。

録画の中断、再開は PAUSE キー（#35）で、終了は STOP キー（#51）で可能です。

Audio VOLUME キー（#53）を使うことでボリュームを調整し、MUTE キー（#34）で音声を消します。

ヒント：

表示スクリーン左下隅のそれぞれのアイコンは、実行中の録画機能を示します。

ビジュアライザーは、レコーディングを開始すると自動的にコーデック H.264 を起動します。（Advanced Settings → Streaming → Record Settings）

動画ファイルは、本体メモリに、または接続されている時は USB メモリに保存されます。

全てのファイルは、日付とタイムスタンプ付きで保存されます。（WV_JJJJMMDD_hhmmss）

例：WV_20130919_024735.avi

録画終了後、オンスクリーンメッセージで録画ファイル名を表示します。

ヒント：？キー（#31）を押すことで、レコーディング可能時間や音声セッティングなど現在の録画状態がスクリーン上に表示されます。

内蔵メモリ（外部ストレージデバイスを接続されていない場合）

静止画と動画は、ビジュアライザーの 8GB 内蔵メモリに保存されます。

ビジュアライザーの MEM モードで動画（または静止画）を見ることができます。

外部ストレージデバイスが接続されている状態

静止画と動画は、外部ストレージデバイスに保存されます。

利用できる容量は、デバイスに依存します

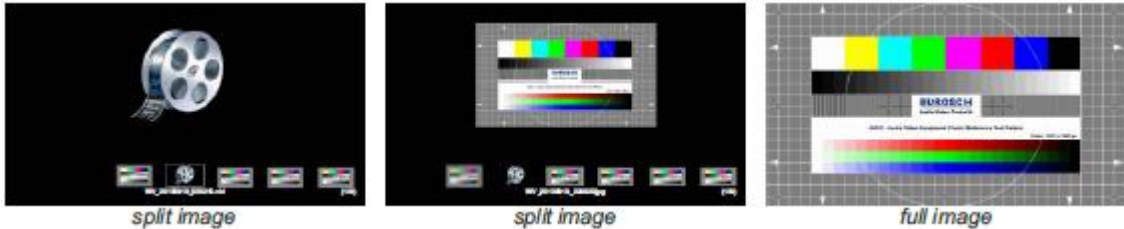
動画（または画像）はビジュアライザーの USB モードもしくはソフトウェアがインストールされているコンピュータで見ることができます。

デフォルトのフォルダ(document directory)は、オンスクリーンメニュー(Advanced Settings → USB Stick Settings)で変更することができます。

注意事項：ビデオファイルは、REC キーを押すたびに保存されます。ファイル・サイズが 4GB を超える場合、自動的に新しいファイルが作成されます。

MEMモード

MEMモードを起動するには、MEMキー（#39）を押してください。分割画面が保存された画像とともに表示されます。同時に画像情報を示すステータスラインが画面底部に表示されます。LIVEキー（#40）を押すと撮影中のライブ画像へ一旦戻ります。この時、MEMモード内は直近に表示された画像のままの状態が保持されます。継続するには、再度MEMキーを押します。表示された分割画面のうちの一つを選び大きく表示するには、Backward/Forwardキー（#32）で画像選択し確定キー（#33）を押してください。同様にBackward/Forwardキーを使って、前/次の画像を表示してください。分割画面に戻る場合は、確定キーを押してください。



MENUキーを使って画像または動画を削除してください。保存された画像とビデオ・クリップは、オンスクリーンメニューのMEMモードで、USBスティックへコピーすることができます。

USBモード

USBモードを起動するには、USBキーを押してください（#47）。分割画面が利用可能なフォルダーと画像とともに表示されます。同時に画像の情報を示すステータスラインが画面底部に表示されます。LIVEキー（#40）を押すと撮影中のライブ画像へ一旦戻ります。この時、USBモード内は直近に表示された画像のままの状態が保持されます。継続するには、再度USBキーを押します。表示された分割画面のうちの一つを選び大きく表示するには、Backward/Forwardキー（#32）で画像選択し確定キー（#33）を押してください。同様にBackward/Forwardキーを使って、前/次の画像を表示してください。分割画面に戻る場合は、確定キーを押してください。



MENUキーを使って画像または動画を削除してください。さらにコンピュータを使えば、USBストレージデバイスのフォルダの作成・消去、画像のフォルダから別のフォルダへの移動、画像や動画の消去やUSBストレージデバイスをフォーマットするなどの作業ができます。

USBストレージデバイスをフォーマットすると、全てのデータが消去されますのでご注意ください。サポートしているファイルシステムはFAT16とFAT32です。サポートしている画像ファイル形式はJPGです。サポートしているビデオファイル形式は、コーデックH.264によるAVIコンテナです。（ビデオファイル拡張子は、*.aviです）

ビルトイン・デジタルスケーラー（HDMI-In、USB スティック、vConnect）

ビジュアルライザーには外部入力をビジュアルライザーの映像として同じモードで表示できるようデジタルイメージスケーラーが組み込まれています。（例えばビジュアルライザーが、プロジェクターに対して 1080p (Full HD) で出力設定されていて、コンピュータが XGA で出力する場合、ビジュアルライザーのデジタルスケーラーはコンピュータの XGA イメージを 1080p に変換します。その結果、ビジュアルライザーのライブ画像とコンピュータとを切り替える時、プロジェクターの入力モードの調整は必要ありません）さらに、接続された USB スティック内の画像もビジュアルライザーの現在の出力モードに自動的に調整されます。ビジュアルライザーの出力解像度はオンスクリーンメニューで調整することができます。（18 ページ参照）

シームレススイッチ

ビジュアルライザーにはシームレススイッチが備えられています。これにより、ビジュアルライザーのライブ画像、外部入力画像、メモリー画像（内部メモリや USB スティック）あるいは vConnect のストリーミング画像とを切替える際にもシームレスに切替え（フェードオーバー等、ディゾルブ効果）することができます。この動作は、オンスクリーンメニューで変更できます。（18 ページ参照）

Picture in picture (PiP) /ライブとフリーズ画像の比較



Picture in picture モードは二つの異なる画像を同じ画面に同時に表示することが出来る機能です。Picture in picture モードを起動するには PiP キー（#37）を押して下さい。現在表示している画像（外部信号、画像メモリー等）は画面左下隅に、ライブ画像は画面右上に大きく表示されます。ライブ画像の内容は、例えば保存されている画像メモリを呼び出して変更することができます。

HDMI 入力、画像メモリおよびライブ画像の PiP 画像比較ができます。小さい方の画面は、HDMI 入力からの信号を表示する時を除いて、フリーズされています。PiP モードの動作は、オンスクリーンメニューの Output Settings で変更できます。（18 ページ参照）



ストリーミング配信

ビジュアライザーは、ネットワーク上で音声およびビデオコンテンツをブロードキャスト可能な内蔵ストリーミングサーバー機能を備えています。

イーサネット接続（有線もしくはワイヤレス）の準備をし、オンスクリーンメニュー内の Advanced Settings → Stream/Recording Settings を選択してください。ここで Destination に IP Address（マルチキャストを選択する場合:225.0.0.0~238.255.255.255 間で割り当てます。224.x.x.x と 239.x.x.x は予約済身で使用できません）、ポート、モード、解像度、フレームレートとストリーミングのフォーマットを割り当てることができます。（RTP H264 まで）。

Auto モード設定時は、ビジュアライザーはオンデマンドでのみストリーミングします。

WolfVision vLink ソフトウェアと大部分のインターネットブラウザでは自動的にストリーミングを始めることができます。ブラウザまたはサードパーティ製アプリケーション（メディア・プレーヤー）でストリーミングがスタートしない場合、STREAMING キー（#52）を使うか、ストリーミングし続ける Continuous モードに変更してください。（この場合、ネットワーク・トラフィックに注意してください）。

サードパーティのアプリケーションでストリーミングするには、アドレス・フィールドにネットワーク URL を入力してください。

インターネットブラウザ例：http://192.168.0.2

メディア・プレーヤー例：http://192.168.0.2/stream.sdp

IP アドレスとは、ビジュアライザーの IP アドレスです。（オンスクリーンメニューの Advanced Settings → Ethernet Settings）

ビジュアライザーは、ネットワークに表示中のビデオコンテンツ（ライブ画像、外部 HDMI-IN またはメモリー）と音声（HDMI-In または Line-In）をブロードキャストします。

技術的バックグラウンド：UDP Multicast はブロードキャスト（多くのクライアントが同じビデオストリームを見る）と同じように動作します。Multicast モードでは、接続されたコンピュータの数の如何にかかわらず、帯域幅は常に一定です。ただし、Multicast をサポートするルーターは多くないので、代わりに UDP Unicast が point-to-point 接続に使用できます。（1 クライアントのみ可能）

TCP Singlecast モードでは、それぞれのコンピュータがビジュアライザーに対して個別の接続をします。クライアント数が増えると、多くの帯域幅が必要になります。（最大 128 クライアント可能）

音声はサポートされていません。

ヒント：

機能をフルに利用するには、ブラウザを使用する際 JAVA versin7 もしくはそれ以上が必要です。

機能をフルに利用するには、以下のポートが必要です：50915、50913、8800 と 8801

使用するポートと IP アドレスがファイアウォールによってブロックされていないかを確認してください。

いくつかのネットワークルーターは、マルチキャストストリームを転送することができないので注意してください。

ストリーミング配信 - vSolution Connect（Apple iPad 用）

ビジュアライザーは、ネットワーク上での iPad からのストリーミング受信をサポートします。

vSolution Connect アプリを iPad にダウンロードし、ビジュアライザーと同じネットワークに iPad を接続しアプリをスタートさせてください。

次に Connect アイコンを軽くタップし、ビジュアライザーの撮影領域に置いて、iPad に表示される指示に従ってください。iPad 画面が赤/青に点滅することによって同期が完了します。

接続が確立されると、iPad に保存してあるドキュメントをビジュアライザーに送ったり、逆にライブ画像を iPad で受けることができます。

iPad はホワイトボードとして、あるいは画像や動画を保存するために使うこともできます。

iPad からビジュアライザーへの切替えは、リモコンの LIVE キー（#40）を押してください。

再度切替える場合は、STRM キー（#48）を押してください。

注意：vSolution Connect により iPad の録画機能を使用する場合、ビジュアライザーの録画機能は使用できません。vSolution Connect 使用中は、イーサネットと USB によるストリーミング機能は使用できません。

以下の項目は、上級ユーザ向けです。
オンスクリーンメニュー/オンスクリーンヘルプ

通常の使用においては、メニュー機能の使用や設定変更は必要ありません。操作に慣れるまでは、ここで紹介する操作は行わないでください。

オンスクリーンメニューに入るには MENU キー(#54 又は#60; カメラヘッドのキーを使う場合は、メニューが表示されるまで押し続ける)を押してください。ビジュアライザーと内蔵カメラの基本設定は、リモコン上の4つの SELECT キー(矢印のある番号キー#32 と#53)またはカメラヘッドにある NAVIGATION キー(#56,#57,#58)を使って行うことができます。

オンスクリーンメニューの内容についてより詳細な情報が必要な場合は、該当する行にカーソルを合わせて HELP ? キー(#31 又は#59)を押してください。その項目に関する詳細な説明がスクリーンに表示されます。

MENU キーを4秒間押すと Extra Menu が表示されます。工場出荷時のセッティング (Factory Reset) を呼び出す場合、解像度や IP アドレスを含めた全てのセッティングをデフォルトに戻します。

ヘルプメニューは、ビジュアライザーのソフトウェア(ファームウェア)と連動しているため、オンスクリーンメニューの機能についての詳細は本取扱説明書に記載しておりません。画面でご確認いただける情報は、その時点での最新のビジュアライザーのファームウェアの内容です。

Exposure Settings

露出の設定は画像の輝度 - ゲイン/シャッター/Aperture/画像輝度/Back Light Compensation など - に影響します。

Color Settings

色の設定によってカメラの色再現性 - ホワイトバランスセッティング/カラーモード/Positive Negative など - に影響します。

ヒント:

スクリーン上の画像が明るすぎたり暗すぎた場合や彩度が適切でなければ、オンスクリーンメニューの Color Settings で変更することができます。

手書きの文字をより読み取り易くするために、画像を BLUE に変換することができます。

Output Settings

Detail Settings (シャープさ) の変更と出力解像度を変更することができます。

ヒント:

Resolution Test 機能を使って、選択した解像度に一時的に10秒間変更することができます。

こうすることで、接続したディスプレイ装置の適合性が簡単にチェックできます。

Preset Control

オンスクリーンメニューのPreset Settingsで、Negative/Blue, Black/White, LightなどPRESETキーに割り当てることができます。加えて、デフォルト設定を呼び出すことができます。

Advanced Settings

このサブメニューで電源投入時の動作、デジタルズーム、オンスクリーンメニューが変更できます。

Ethernet、date/Time、USB Stick設定等がこのメニューに含まれています。

ヒント:

パワー・ダウンモードを"ECO"又は"DEEP"に変更してスタンバイ時の消費電力を節約することができます。

"Device Info"を開くと現在搭載されているファームウェアバージョン、ビジュアライザーの詳細を見る事が出来ます。

Recall Default Settings

画像に影響する設定はすべて工場出荷時の状態に戻すことができます。他の機器との通信に影響する設定、例えばネットワーク設定や解像度などは変更できません。

ヒント:

特定の1項目をリセットしたいときはその項目を選んだ状態で2秒間? HELPキー(#31又は#59)を押してください。

Start Quick Setup Guide

ビジュアライザーに初めてスイッチを入れたとき、自動的に Quick Setup Guide が始まります。このメニューにより、言語、ネットワーク、日付/時刻、音声設定など基本的な設定ができます。なお、このメニューは手動で始めることもできます。

HDMI/RGB出力

HDMI とRGB出力(#18, #19)は以下の信号フォーマットで出力可能です

- SVGA (4:3 - 800 X 600 pixels)@60Hz
- XGA (4:3 - 1024 x 768 pixels)@60Hz
- UXGA (4:3 - 1600 x 1200 pixels)@ 60Hz
- SXGA (5:4 - 1280 x 1024 pixels)@60Hz
- 720p (16:9 ワイドスクリーンHD - 1280 x 720 pixels)@60Hz
- **1080p (16:9 ワイドスクリーンHD - 1920 x 1080 pixels)@60Hz ネイティブ画像**
- WXGA* (16:10 ワイドスクリーン - 1280 x 800 pixels)@60Hz
- WUXGA (16:10 ワイドスクリーン - 1920 x 1200 pixels)@60Hz

初期値は「AUTO/自動解像度認識」モードに設定されています。このモードでは、どの機器がHDMI出力端子 (#18)とRGB(#19)に接続されているかをビジュアライザーが継続的に認識し、接続されている各装置に合う最適な出力モードを自動的に設定します。接続されている機器またはケーブルが Plug and Play (プラグアンドプレイ) に対応していない場合は、ビジュアライザーが可能な解像度を見つけることができないので注意してください。ビジュアライザーが可能な解像度を見つけることができない場合には、デフォルトのXGA/60Hzに設定されます。
(*プラグアンドプレイ互換ケーブルは、DDCをサポートしています。)

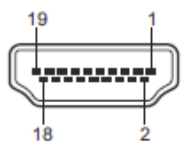
「AUTO/自動解像度認識」機能を使用しない場合は、オンスクリーンメニューで出力モードを手動で選択できます。
(18ページ参照)

最高の画質を得るには、使用するディスプレイ (LCDまたはDLPプロジェクタやモニタ等) のネイティブ解像度に合った出力モードにビジュアライザーを設定してください。

重要：ここでいうプロジェクタまたはモニタのネイティブ解像度とは、(圧縮モードで)表示できる最大解像度ではなく、プロジェクタまたはモニタのプロジェクタのネイティブな解像度のことです。ネイティブな解像度とは、LCDディスプレイやDLPチップの実際のピクセル数のことです。大抵のLCDまたはDLPプロジェクターはネイティブ解像度以上の解像度を表示することができますが、圧縮モードとなり画質が劣ります。

ビジュアライザーの出力モードは、使用するディスプレイ機器のネイティブ解像度よりも高く設定しないでください。接続機器の取扱説明書に従ってください。

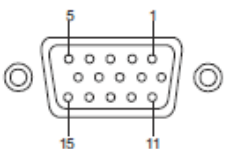
アスペクト比がビジュアライザー又はディスプレイのネイティブ解像度にマッチしない場合、ディスプレイの上端/下端または左端/右端が黒く帯状に表示されます。ディスプレイの中には黒い帯状を最小にするため画像をズームインする機能を持っているものがあります。接続機器の取扱説明書に従ってください。

HDMI Port (#18)

19-pin HDMI
connector female
(front side, unit)

1 - T.M.D.S. Data2+	8 - T.M.D.S. Data0 Shield	15 - SCL (I ² C Serial Data Line for DDC)
2 - T.M.D.S. Data2 Shield	9 - T.M.D.S. Data0-	16 - SDA (I ² C Data Line for DDC)
3 - T.M.D.S. Data2-	10 - T.M.D.S. Clock+	17 - DDC Ground
4 - T.M.D.S. Data1+	11 - T.M.D.S. Clock Shield	18 - DC+5V (max. 50mA)
5 - T.M.D.S. Data1 Shield	12 - T.M.D.S. Clock	19 - Hot Plug detect
6 - T.M.D.S. Data1-	13 - Reserved	
7 - T.M.D.S. Data0+	14 - ARC (Audio Return)	

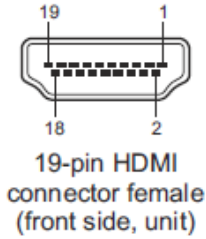
CEC (Consumer Electronic Control)、ARC (Audio Return Channel)、HEC (HDMI Ethernet Channel)はサポートしていません。

RGB Port (#19)

15-pin D-Sub HD
connector female
(front side, unit)

1 - Analog Red video	6 - Red return	11 - N/C Not connected
2 - Analog Green video	7 - Green return	12 - SDA I ² C data
3 - Analog Blue video	8 - Blue return	13 - HSync Horizontal sync
4 - N/C Not connected	9 - DC+5V max. 50mA)	14 - VSync Vertical sync
5 - GND Ground	10 - GND (VSync, DDC)	15 - SCL I ² C clock

HDMI IN – 外部入力 (#20、#21)



1 - T.M.D.S. Data2+	8 - T.M.D.S. Data0 Shield	15 - SCL (I ² C Serial Data Line for DDC)
2 - T.M.D.S. Data2 Shield	9 - T.M.D.S. Data0-	16 - SDA (I ² C Data Line for DDC)
3 - T.M.D.S. Data2-	10 - T.M.D.S. Clock+	17 - DDC Ground
4 - T.M.D.S. Data1+	11 - T.M.D.S. Clock Shield	18 - DC+5V (max. 50mA)
5 - T.M.D.S. Data1 Shield	12 - T.M.D.S. Clock	19 - Hot Plug detect
6 - T.M.D.S. Data1-	13 - Reserved	
7 - T.M.D.S. Data0+	14 - ARC (Audio Return)	

CEC (Consumer Electronic Control)、ARC (Audio Return Channel)、HEC (HDMI Ethernet Channel)はサポートしていません。

コンピュータはビジュアライザーのHDMI入力端子1/2(#20、#21)に接続してください。
EXTERN1/2キー(#46)を押すことにより、ビジュアライザーは外部入力の信号を画面に表示します。
ビジュアライザーのライブ画像に戻るにはリモコンのLIVEキー(#40)を押して下さい。

(カメラヘッドのEXTERNキー(#60)を使って、ビジュアライザーのライブ映像と外部入力の映像を切替えることができます。)

ビジュアライザーにはA/Dコンバーターが内蔵されているのでコンピュータからアナログRGBで入ってきた信号をデジタル化し、選択した信号形式でHDMI (音声を含む)、RGB端子から出力することができます。

推奨解像度： 1080p (1920 x 1080 @60Hz)

入力可能な信号： VGA (640 x 480 @60Hz) から WUXGA (1920 x 1200 @60Hz)間の幾つかの解像度とリフレッシュレート

次のデータが提供されます：

Plug & Play Monitor VERSA DDC
Monitor name: "WolfVision"
Video Input Definition: digital signal
Vertical range limits: 50Hz - 60Hz
Horizontal range limits: 20kHz - 75kHz
Maximum pixel clock: 170MHz
Gamma: 2.2
Preferred resolution(推奨解像度): 1080p (1920 x 1080) @60Hz

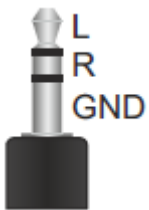
HDMI コンテンツ保護HDCP

ビジュアライザーはHDCP (High-bandwidth Digital Content Protection)をサポートしていません。
HDMI 入力の暗号化された信号はブロックされ、ビジュアライザーは黒い画像を出力するだけになります。

HDCP独自の技術はハリウッドのHD映画やペイ・パー・ビュー伝送のような保護されたコンテンツに使用されており、保護されていないコンテンツには影響しません。セキュリティ・システムをバイパスする事は法律上認められません。

著作権の所有者は Digital Millennium Copyright Act (DCMA)です。

Audio Line IN と Line Out (#22、#23)



ビジュアライザーは、異なる音声源と異なる音声出力を取り扱うことができます。オンスクリーンメニューの Advanced Settings → Audio Settings でご希望の設定を選んでください。

Line In : max. 1V_{RMS}@10kOhm (stereo, unstable)

Line Out : max. 1V_{RMS}@10kOhm (stereo, unbalanced; max. transmission rate 1:1)

音声出力のボリュームは、10% (HDMI オーディオにも作用) のステップで減少します。

ヒント：グラウンドループによるハムノイズが発生する場合、据付け環境を確認ください。

改善しない場合は、グラウンドループアイソレーターLine In と Line Out の両方に入れてください。

Transmission range : 20Hz~20kHz at +/-3dB/300Hz~10kHz at +/-1dB

Transmission ratio : 1:1

内蔵音声マイク (#15)

内蔵マイクは、外部オーディオ源と同じように使うことができ音声コンテンツを含めることができます。
音声出力のボリュームは、10% (HDMI オーディオにも作用) のステップで減少します。

USBポート (Storage Device へ) (#29)

USBポート (クライアント用) は、画像または動画保存のためのメモリー拡張用として使うことができます。(14 ページ、15 ページ参照) また、それはメニュー設定、ファームウェアアップデートに使うことができます。500mA が最大電力消費ですので、注意してください。

USBスティックへのビジュアライザーの設定保存

ビジュアライザーはメニュー設定及び現在の設定をUSBスティックにXMLファイルで保存することができます。ご希望の設定に変更した後、USBスティックに保存します (On-Screen MenuのAdvanced Settings → USB Stick Settings) XMLファイルが保存されたUSBスティックを接続すると、スクリーン上にメッセージが現れます。USBスティックを抜くと、以前の設定が再現されます。ビジュアライザーの設定は On-Screen Menu で変更することができます。(18 ページ参照)

USBポート (コンピュータへ) (#26)

USB デバイスポートは、ビジュアライザーとコンピュータ間の直接の接続に使用することができます。

PTP 機能 (Picture Transfer Protocol, version1.0)

PTP 機能は、ファイルブラウザーを用いて内蔵メモリーにアクセスする機能があります。追加デバイスドライバーは、必要ありません。(PC のオペレーティングシステムに依存する)。

UVC ドライバ (Universal Video Class, version1.0)

ビジュアライザーは、UVC 互換なので webcam として使うことができます。追加デバイスドライバーは必要ありません。(PC のオペレーティングシステムに依存する)

ビデオキャプチャドライバー (スタンドアロン、vSolution Link 機能に含む)

ビデオキャプチャドライバーは、WIA (Windows Image Acquisition) 互換のため、Adobe Photoshop® のようなグラフィックスソフトやインタラクティブホワイトボードと組み合わせて使うことができます。

以下から最新版ビデオキャプチャドライバーをダウンロードしてください: www.wolfvision.com/support

WolfVision vSolution Link

vSolution Link を使うことでビジュアライザーをコントロールし、立体物のスキャナーとして使う事ができます。JPG、TIF または BMP フォーマットの画像を瞬時に取得することができます。さらに、動画ファイルを保存し、ビジュアライザーの稼働状況を管理することもできます。

保存された画像は、EXIF データ (JPG または TIFF フォーマットのみ利用可) を含んでいます。

含んでいるデータは以下の通りです:

製造メーカー = WolfVision

ビジュアライザーモデル (シリアル番号を含む) = (例) VZ-9.4L (01041472)

ファームウェアバージョン = (例) V1.33a

生成された日付、時間 = (例) 2014-03-07 11:06:29、(yyyy-mm-dd hh : mm : ss)

以下から最新版 vSolution Link をダウンロードしてください: www.wolfvision.com/support

イーサネット/LANポート (#28)

10Base-T/100Base-TX

LANポートによりビジュアライザーを内部コンピュータネットワークに組み込み、IPアドレス (WAN) を割り当てればインターネット経由で通信することができます。

ネットワーク管理者は、LANポートを使って手元のデスクトップコンピュータから全てのビジュアライザーを管理することができます。

ビジュアライザーのLANポートを使ってできるアプリケーションは、ますます増えています。

ビジュアライザーの制御、静止画像取得、ライブビデオストリーム、ファームウェアアップデート、調整、メニュー設定およびメンテナンス目的等です。

対応しているプロトコルは、TCP/IP、IGMP、UDPおよびARPです。

対応している (検証済み) のインターネットブラウザは、Internet Explorer、Firefox、ChromeおよびSafariです。デフォルトでは、DHCPが有効になっておりサーバーから提供されるネットワーク設定を自動的に受けられます。

WolfVision vSolution Link では FullHD (1080p)まで可能で、ブラウザ使用時は HD(720 p)です。

許可されていないユーザーが、ネットワーク経由でビジュアライザーへログインする事を防止するために、administratorとuser passwordを設定することができます。LAN経由でパスワード転送は、Md5で暗号化します。

「How To Use the visualizer in the Network」をご参照ください。

Power over Ethernet plus (PoE+)

ビジュアライザーのLANポート(#28)は、Power over Ethernet plus (PoE+) 機能を持っています。電力はイーサネットケーブルで供給されるため、その他の電源アダプターやケーブルを省くことができます。ビジュアライザーは、標準規格であるIEEE802.3at-2009に準拠したPoE+ パワーインジェクターやPoE+ スイッチと互換性があります。PoE+ アダプターは、IEEE802.3at-2009規格に準拠している必要があります。この規格に適合しないアダプターは、ビジュアライザーと互換性がなく故障の原因となることもあります！
パワー分類：High power Class 4 (12.95~25.50W)
PoE+アダプターの詳しい情報については、www.wolfvision.com/wolf/thirdparty.html をご覧ください。

ルーマネージメントシステム

LAN ポート (#28) と USB デバイスポート (#26) は、会議室を統合するルームコントロールシステムのような外部装置経由でビジュアライザーを制御するのに用いることができます。シリアルプロトコルに関しては、www.wolfvision.com/support でご確認ください。

ビジュアライザーのネットワーク接続

有線接続

ビジュアライザを既存のネットワークに接続してください。
利用可能な DHCP サーバーがあれば、ビジュアライザーは DHCP 情報をもとに IP アドレスを設定します。利用可能な DHCP サーバーがない場合、IP Address、Subnet Mask、Gateway、Nameserver をマニュアル入力し有効な設定にしてください。
IP アドレスの設定によりビジュアライザーはノートパソコン、スマートフォンやタブレットを直接接続することができます。

セキュリティ

ビジュアライザーのイーサネット機能は制限可能で、アクセスはパスワードで保護することができます。オンスクリーンメニューの Advanced Settings → Ethernet Settings の Security Settings を選択してください。設定を変更しイーサネット機能を制限するために、有効な管理者パスワード (Admin Password) を入力してください。この管理者パスワードは、あとから変更することができます。パスワード変更は注意してください！WolfVision 社だけが管理者パスワードをリセットすることができます！Admin と Guest のデフォルトパスワードは、Password です。

FTP クライアント

ビジュアライザーは、ビデオを共有するために FTP クライアントとしての設定することができます。イーサネット接続 (有線またはワイヤレス) の準備をし、オンスクリーンメニューの Advanced Settings → Ethernet Settings の FTP Settings を選択してください。ここで Server IP Address、Username と Password を割り当てることができます。上記の設定が終了したら、Interval を選択し FTP サーバへの画像コンテンツ送信間隔を設定します。Transfer は、動画ファイルを FTP サーバに送信確認した後ローカルファイルを自動的に削除または保持するように設定できます。

メンテナンス クリーニング

本体： 柔らかい布などでそっと拭いて汚れを落としてください。

レンズ： けば立ちのない柔らかい布（ティッシュペーパーは使用しないでください。）でやさしく拭いて汚れを落としてください。軽く息を吹きかけてレンズを湿らせてから柔らかい布で拭き取ります。もしくは専用のクリーナーを使用し、それ以外は使用しないでください。

警告： 決してアセトンやベンジンなどの強力なクリーナーは使用しないでください。
表面を傷めたり、反射防止コーティングが損なわれます。

ファームウェアのアップグレード

ビジュアライザー（スクリーン上のオンスクリーンHELPを含む）のソフトウェア（ファームウェア）は簡単に最新バージョンにアップグレードできます。ファームウェアのアップグレードは、USB、LANまたはUSBスティックで行うことができます。

最新のファームウェアファイルは、www.wolfvision.com/supportから無償でダウンロードできます。

USB、LAN経由のファームウェアアップデートは、vSolution Link by WolfVisionソフトウェアで行います。

USBスティックの場合は、フォルダ（root:WOLFVISION）にファームウェアファイルを置く必要があります。

（デフォルトフォルダは、オンスクリーンメニューのAdvanced Settings → USB Settingsで変更することができます。）

別の方法として、ビジュアライザーがインターネットに接続しており、nameserver IPアドレス（Advanced Settings → Ethernet Settings）が割り当てられている場合、ファームウェアのアップデートは、オンスクリーンメニュー（Advanced Settings → Device Info）で開始することができます。

Device Info 内のCheck For FW Updateを選択することにより、ビジュアライザーは、WolfVisionサーバに最新のファームウェアファイルがあるか否かを確認します。

オンスクリーンメニューに従って、アップデートを開始してください。

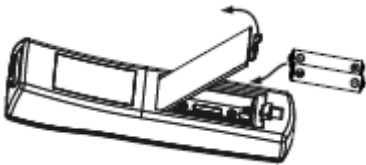
赤外線リモートコントローラー

赤外線リモコンは、ビジュアライザーから一定の距離内でのみ使用できます。ビジュアライザーとリモコンの間に障害物があったり、リモコンの電池が減っている場合には、十分に作動しないことがあります。

至近距離からでなければうまく作動しなかったり、まったく使えなくなった場合は、電池を交換してください。

リモコンの背面のカバーを開け、新しい1.5V単三電池2個と交換してください。その際、電池の極性を確認してください。

バッテリーの極性をチェックしてください！



注意

間違ったタイプと交換した場合、爆発の危険があります。

使い古した電池は指示に従い処分してください。電池をリサイクルしてください。

異なる IRコード

同じ部屋で2台以上のビジュアライザーを使用する場合は、それぞれの機器に異なる赤外線コードを設定して、すべてを個別に制御する必要があります。

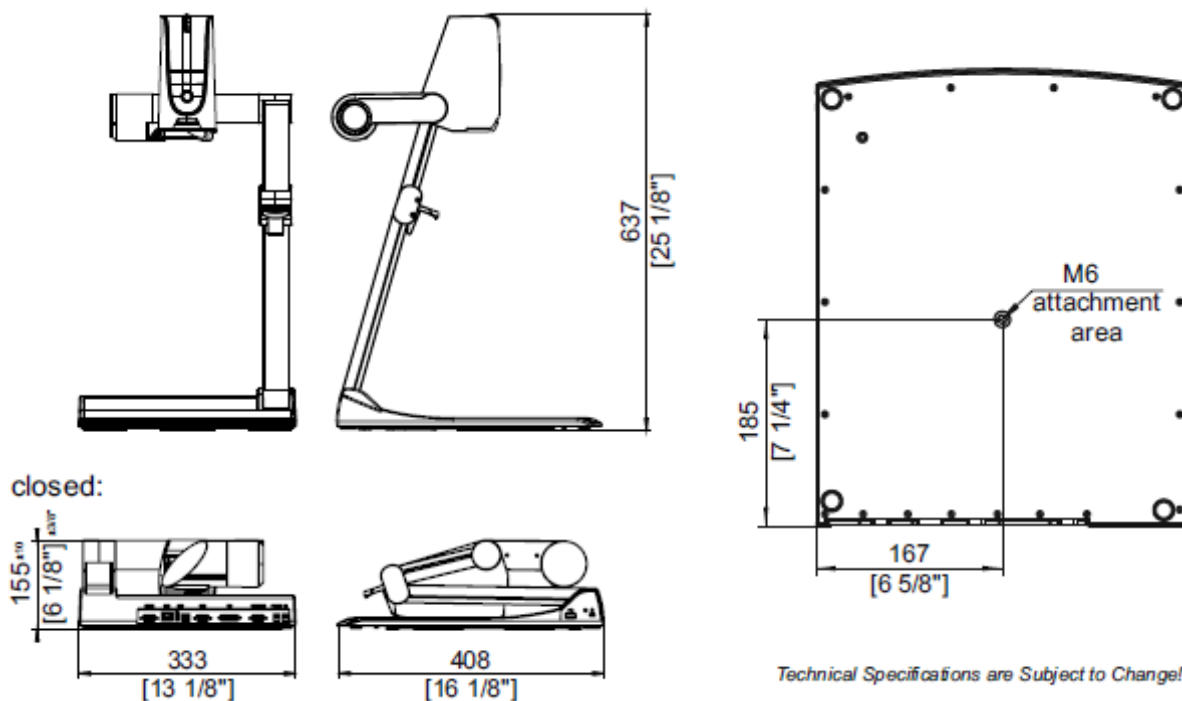
IRコードを変更するには、オンスクリーンメニューでAdvanced Settings → Miscellaneous Settingsを選択し、IR CodeをA、B、C、Dのいずれかで設定します（コードAがデフォルト）。リモコン上でIRコードを変更する場合は、PRESET 1、PRESET 2(#38)、ZOOM TELE(#45)を同時に押して下さい。

このキーの組み合わせで押すたびに、A、B、C、D...A...の順に切り替わります。

リモコンをコードAにリセットする場合は、PRESET 1、PRESET 2、ZOOM WIDEを同時に押してください。

外形寸法図

動作時:

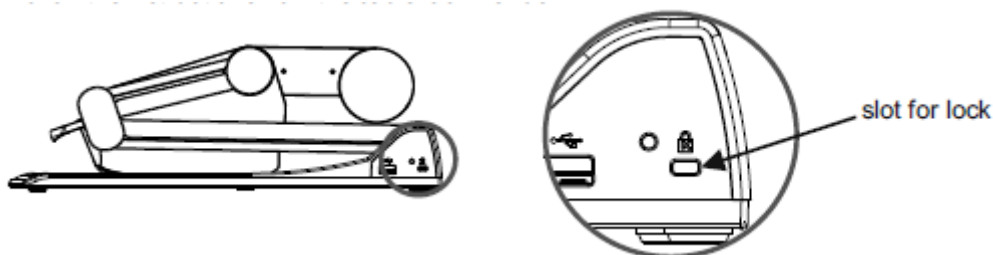


Technical Specifications are Subject to Change!

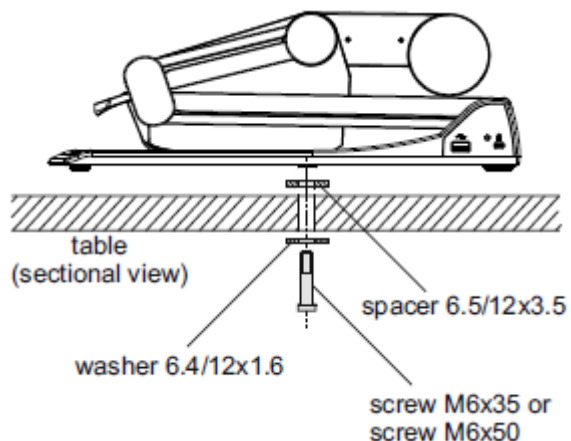
技術仕様は変更になることがあります!

盗難防止装置 1 : Tバーロック

ビジュアライザは、盗難防止対策としてセキュリティケーブルTバーロック(Kensington Lock)で固定することができます。ケーブルロックの説明書に従ってください



盗難防止装置 2 : テーブルロックボルト



ビジュアライザは、盗難防止対策として付属のテーブルロックボルトで、テーブルの上に固定することもできます。ネジ穴は、8mmですのでそれ以上ネジを回さないでください!

付属アクセサリ (パーツ番号) :

- 1x Spacer 6.5/12x3.5 (109946)
- 1x Washer 6.4/12x1.6 (101691)
- 1x Screw M6x35 (101689)
- 1x Screw M6x50 (101690)
- 1x 組立マニュアルVZ-9.4 (102340)



◆ 便利メモ（お買い上げ時にご記入下さい） ◆

お買い上げ 年 月 日		品 番	
		製造番号	
お買い上げ の販売店名	TEL () FAX ()		

※ 弊社製品保証につきまして

- 弊社では、製品の製造番号にて保証期間を管理しておりますため、製品保証書を発行致しておりません。
- 保証期間は、製品出荷日より5年間有効です。
- お問い合わせの際には、必ずモデル名と製造番号をお知らせ下さい。

連絡先:

日本国内:

株式会社ヴォルフビジョン

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場1-30-15 VORT高田馬場I 9F

Tel. 03-6233-9465, Fax: 03-6233-9466, E-mail: wolfvision.japan@wolfvision.com

URL: www.wolfvision.com/japanese/

製造元 / 本社:

WolfVision GmbH, VlbG. Oberes Ried 14, A-6833 Klaus / AUSTRIA,

Tel. ++43-5523-52250, Fax. ++43-5523-52249, E-Mail: wolfvision@wolfvision.com